

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

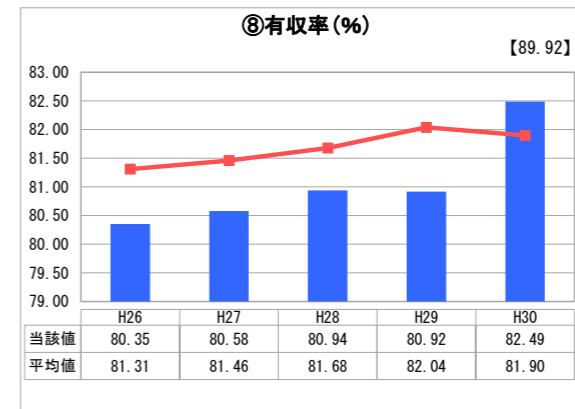
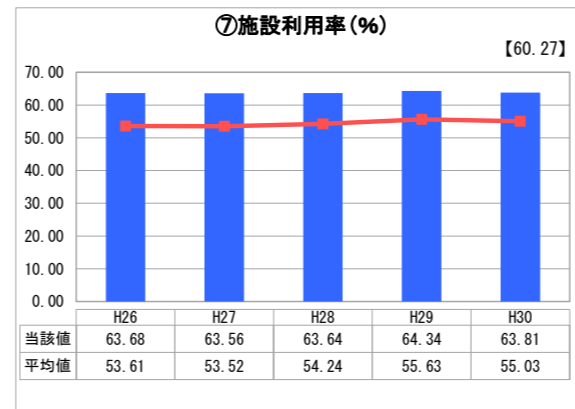
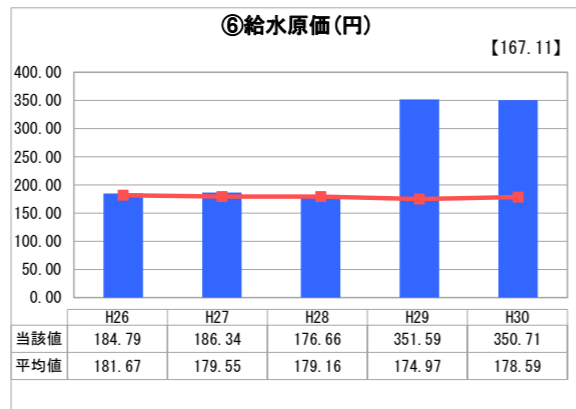
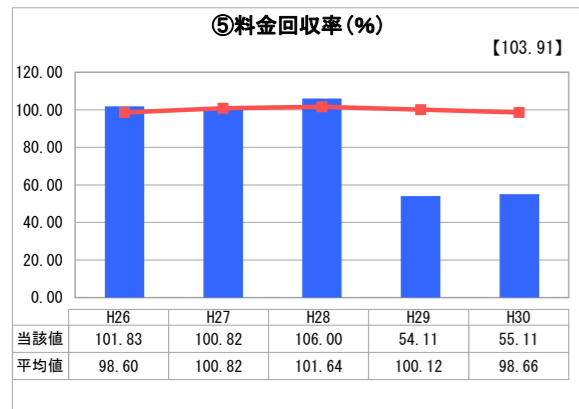
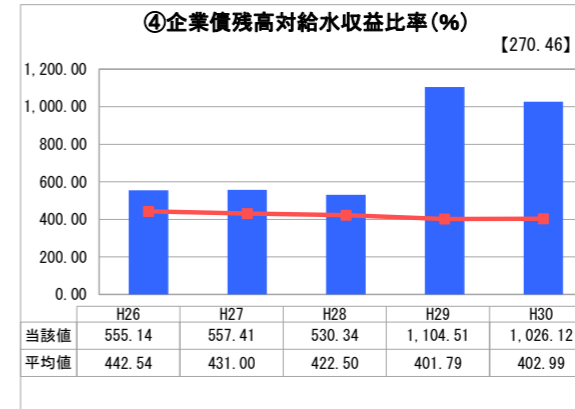
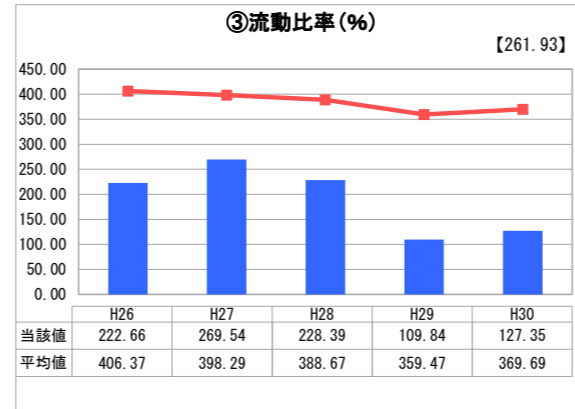
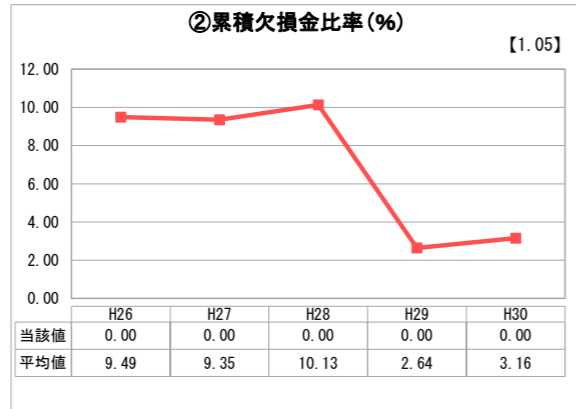
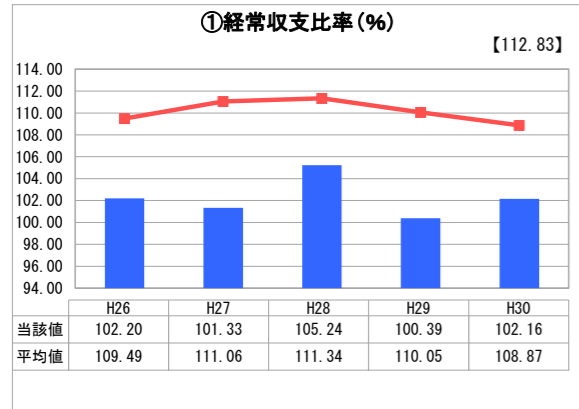
広島県 安芸高田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	59.53	76.58	3,693	

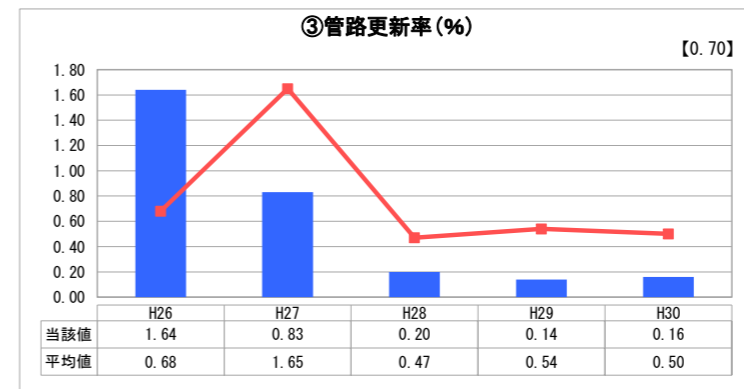
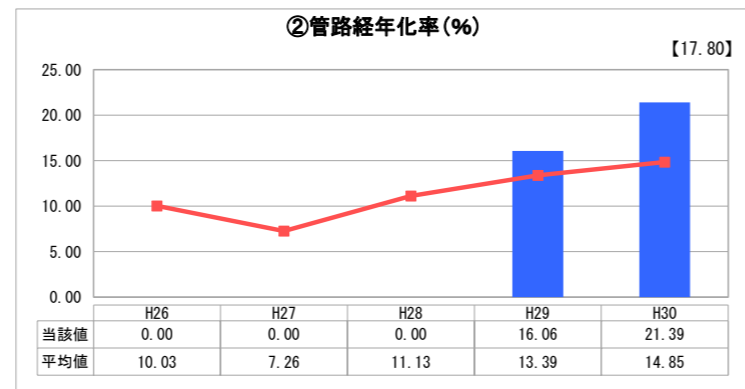
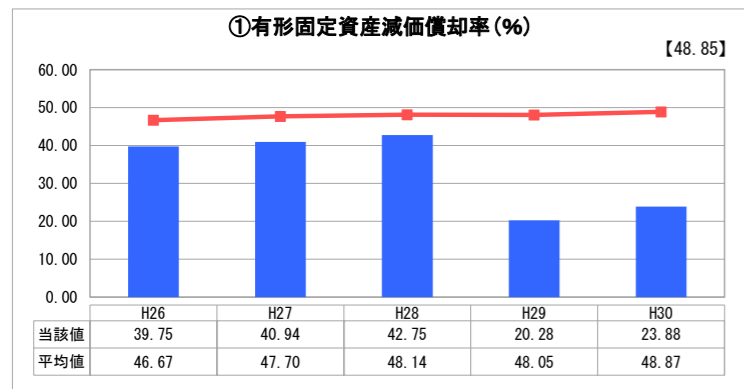
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
28,808	537.75	53.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,947	81.84	268.17

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は100%を超え黒字となっているが、類似団体平均値よりも下回っている。今後繰入金削減の可能性もあり、更なる費用削減の取り組みを要する必要がある。  
 「②累積欠損金比率」は欠損金を生じていないため0%で推移している。  
 「③流動比率」は100%を上回っていることから、短期的な支払い能力は確保できている。  
 「④企業債残高対給水収益比率」平成29年度の簡易水道事業の統合により急激に上昇した。投資規模に対する適正な更新計画の検討が必要である。  
 「⑤料金回収率」は類似団体平均値よりも大幅に下回っている。これは給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われているため、更なる費用削減の取り組みを要する必要がある。  
 「⑦施設利用率」は類似団体平均値、全国平均値より高い数値で推移している。施設を効率的に利用していると考えられる。  
 「⑧有収率」はこれまで類似団体平均値を下回っていたが、平成30年度は上回った。全国平均値に近づくよう漏水調査・修理を実施し、更なる有収率向上に努める必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産原価償却率」は平成29年度に大幅に低下したが、これは比較的新しい施設を有する簡易水道事業の統合によるものと思われる。しかし、今後は「②管路経年化率」の上昇が想定される。「②管路経年化率」は類似団体平均値を上回り、「③管路更新率」は下回っている。今後は計画的かつ効率的な更新を実施していく必要がある。

## 全体総括

平成28年度に策定し年次更新している経営戦略に基づき、経営の健全性と効率性を高めるため、平成30年度（平成31年2月調定分）に料金改定を実施したが、料金回収率の数値を見る限り目立った効果は見られなかった。今後更なる料金改定と使用削減の取り組みをするとともに計画的な施設の更新と維持管理を実施していく必要がある。